

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第3回フォーラム研究会
議事録

日時：平成25年6月19日（水） 10：00～13：30

場所：東京大学工学部12号館2階会議室

出席者：15名（順不同・敬称略）

木村(PONPO)、足立(元気ネット)、植木(元気ネット)、円満字(PONPO)、大石(PONPO)、
神崎(PONPO)、久保(PONPO)、鬼沢(元気ネット)、渋谷(元気ネット)、
崎田(元気ネット)、竹中(PONPO)、中岡(元気ネット)、丸山(PONPO)、諸葛(PONPO)、
土田(関西大)(社会調査グループ)

配布資料

F3-0. 議事次第

F3-1. 第2回フォーラム研究会議事録案

F3-2. 第2回フォーラムに関するアンケート（自由回答）

F3-3. 第3回フォーラムスケジュール表（運営者用）

F3-4. 第3回フォーラムプログラム表（配布用）

F3-5-1. 第2回フォーラム グループワーク付箋まとめ（A班）

F3-5-2. 第2回フォーラム グループワーク付箋まとめ（B班）

F3-5-3. 第2回フォーラム グループワーク付箋まとめ（C班）

F3-5-4. 第2回フォーラム 次回のテーマ投票結果

F3-6. 第2回フォーラム記録（【全体共有】の部分）

F3-7. ブレーンストーミングのやり方

F3-8. グループワークの進め方

F3-9. 第3回フォーラムに関するアンケート

F3-10. 第4回フォーラムにむけて

議題

0. 議事録確認

1. 第2回フォーラムの反省

2. 第3回フォーラムについて

3. フォーラム終了時のアンケートについて

4. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

0. 議事録確認（配布資料 F3-1）

木村氏より、資料 F3-1 に基づき、前回の議論の内容が確認された。

1. 第 2 回フォーラムの反省（配布資料 F3-2）

第 2 回フォーラム終了直後に反省会が行われている。ここでは、主に資料 F3-2 に基づいて、前回のフォーラムを振り返った。

- ・ 時間が足りないというご意見が多い。
- ・ 運営方法は、おおむね好評であった。
- ・ フォーラム自体が原子力肯定に偏っているように見える、というご意見があった。
→面と向かって「反対だ」という意見を言いづらく感じている方がいるかもしれない。

以上の反省を踏まえ、次の議題へ展開した。

2. 第 3 回フォーラムについて（配布資料 F3-3～F3-10）

木村氏から、資料 F3-3 に基づき、第 3 回フォーラムのスケジュール案が紹介された。

まず、グループワーク 1 のテーマについて議論された。

【議論の前提】

テーマ案は『関心を持って原子力のことを考えられるようになるには、どうしたら良いだろうか？』

- ①参加者の得票数が多かったのは、「原子力に関心を持ってもらうには」、「アレルギーを払拭するには」。
- ②アンケートでご指摘があったように、肯定側に偏っていると捉えられないようにするべき。（関心は良い意味、悪い意味両方だということを参加者に伝えたい）
- ③45分で2つの問いに答えるのは難しい。問いは1つにする。

【テーマに関する議論】

- ・ 「なぜ今まで原子力に関心がなかったのだろうか？」と逆に聞いてはどうか。
- ・ 「原子力を“自分ごと”として考えるには」はどうか。自分ごととして考え、さらには社会全体で決めていくにはどうしたらいいか、を考えてほしい。
- ・ 「原子力に対して意見を持つにはどうすればいいか？」はどうか。
→その問いかけだと、「意見を持たなければいけない」という前提になってしまう。「関

心を持つ」に対しても同様のことが言える。

- 「原子力のことをもっと考えて（話して）もらうにはどうしたらいいだろうか？」はどうか。
- 特にいじらずこのままのテーマを提示し、プラス、マイナス含めて議論してもらったらどうか。
- 「原子力への関心って何？」と、広く問いかけをしてはどうか。
→様々な意見が出るのが予想される反面、テーマが広すぎると收拾がつかなくなる可能性がある。
- なぜ「関心を持ってもらうには」というテーマを選んだのか、というところから議論を始めるのもひとつの手ではないか。
- このテーマで話し合い、まとめるだけだと、肯定側の誘導と取られるかもしれない。意見が出そろった後、「では、実際にこれらが実施されたら、あなたは関心を持つようになるか？」というステップを入れてはどうか。
- 「原子力カムラの境界を越えるために」と冠すれば、参加者も議論の方向性が見えるのではないか。
→「原子力カムラ」が何なのか分からない場合、戸惑うかもしれない。
- そもそもフォーラム参加者は関心が高いはず。関心を持ってほしい対象は誰か？
→第2回フォーラムの議論の流れから判断するに、周りの人。
→「関心を持ってもらう」の目的が、個々人で異なる可能性はある。（反対してもらいたいために、関心を持って、もっと原子力の怖いところを知ってもらいたいという考え。良いところを知って、肯定派になってほしいという考え。）
- 専門家の立場からすれば、「世の中の人に関心を持ってもらうための案を出す」ことになり、上から目線になってしまうのではないか。（⇔専門家の上から目線の解消がフォーラムの目的のひとつではないか）
→「専門家が幅広いこと（他分野、市民の意識、自分のコミュニケーション技術等）に関心を持つにはどうしたら良いか？」という視点に立って、意見を出してくれることが望ましい。
→そろそろ、首都圏参加者から指摘が出るかもしれない。（例：「専門家が上から目線の態度だから、国民に伝わらないのだと思います」）
- 「関心を持つ」という言葉には、悪いところを探して正すという意味もあるから、必ずしも肯定側に偏っているわけではないのではないか。
→対象が原子力の場合、ただ「関心がある」と言うと、賛成と取られる傾向がある（はっきり「反対だ」と言わないと賛成だと思われる）。
- 福島事故後、原子力に関心を持ったけれども、何をしたらいいか分からない、という層もいるだろう。

- ・ 「原子カムラ」の議論なのか、「原子力」の議論なのか、混同してはいけない。第1回～第3回は、「原子カムラ」はなんとなく悪いイメージがあるようだ→そのイメージを払拭するための議論は十分ではなかったが、その原因のひとつとして、「原子力」のイメージが挙げられる、という流れになっている。
→つまり、「関心を持てば、原子カムラを越えられるのかどうか」の議論は十分に行われていない。

【テーマに関する議論（参考意見）】

- ・ 市民には「知りたいこと」を挙げてもらい、専門家には「説明が不十分だと思うもの」を挙げてもらうのはどうか。
→透明性が主体になるので、前回決めたテーマからややずれる。
- ・ 専門家からすれば、市民がなぜ怖がっているのか、なぜ反対するのかが分からないはず。市民にその理由を言うだけ言ってもらって回を作ってはどうか。
→それと対になる回として、専門家が専門性の中でどう考えているかを話す回も設けてはどうか。
→全体の設計としては面白いが、現時点からそれを導入するのは困難。
- ・ 原子力には穢れのイメージが付きまとう。少し遠回りになるが、「原子力はなぜ忌み嫌われるのか？」というテーマはどうか。（自動車との対比など）
- ・ 議論の方向性として、「信頼」の要素を取り入れるべきか。原子力政策を個人個人が判断できるようになるべきなのか。それとも、様々な情報を得た上で、だから「お上」に任せられる、という方向に持っていくべきなのか。
→その方向性は運営側ではなく、参加者が決めるべき。（全5回ではそこまでの議論にならないと思うが）

以上を踏まえ、テーマは『原子力に関心を持つためにはどうすれば良いか？ 無関心は本当に駄目なのか？ そもそも原子力への関心とはなんだろうか？』とした。3つまとめて考えてもらい、貼る段階で、どの問いに対する答えか分類して貼ってもらうスタイルを取ることにした。

続いて、次回のテーマの決め方（第4回の設計も関連する）について、木村氏から提案があった。それを受けて議論がなされた。

【木村氏の提案】

第2回フォーラムでテーマを決めたときに次点だった「エネルギー全体の中の原子力」のような、専門性の高いテーマを採用した際の実案。

第3回終了時に、参加者にA4の紙（資料F3-10）を1枚手渡し、2週間の間にそのテーマについて調べてまとめてもらう。その紙をPONPO宛に郵送してもらい、人数分印刷し、配布資料にする。

全体、もしくはグループワークで情報を共有した後に、ディスカッションする。

参加者に資料を作成してもらうことについては、合意がなされた。

- ・ A4 1枚は必須。封筒に入る限りは添付資料も可とする。
- ・ 添付資料の出典は明記してもらう。（「〇〇新聞切り抜き」「雑誌名」等）

次回のテーマを第2回同様参加者に聞くか、運営側で用意するかが議論となった。

以下の議論を受け、運営側でテーマを決定した。第3回では、関心、教育、透明性などのキーワードをカバーできる。残りのキーワードをカバーするために、『①原子力は安全か。②原子力はやめられるのか（必要性）。③エネルギーの中の原子力の位置づけ』の中から選択し、参加者に資料を作成してもらうことになった。

- ・ 終盤なので、今までの流れを受け、運営側で決めても構わないと思う。
- ・ 参加者が一番話したいことを話せるようなテーマがいいのではないかと。
→運営側でそれを把握しているのか。
- ・ 特にテーマを設定せず、参加者に調べたいことを調べてもらうのはどうか。
→話し合っても進展がないようなテーマになってしまうおそれもある。
- ・ 「原発はやめることができるのか」というテーマなら、市民側、専門家側、それぞれの立場で意見を書けるのではないかと。

全体で話してもらうか、グループワークで話してもらうかについては、1人3分程度で全体で話してもらったのち、グループワークでディスカッションすることとした。

- ・ テーマごとのグループに分かれると、人数に偏りが出る可能性がある。
→第3回終了時に、おおよその人数比を把握しておく。偏りが大きいようであれば、テーマに関係なく混成する等で対応する。
- ・ 最後の全体共有は困難なので、なし。その代わりに、最後の一言の時間を増やす。

詳細については、第4回フォーラム研究会で議論するが、上記の方針で第3回終了時に参加者にアナウンスすることになった。

また、方法論に関する議論も、同時並行で行われた。配布資料の細かい修正も行われたが、省略する。主な意見を示す。

- ・ フォーラムの全体的な目的、第1回～第3回の流れ、今回の話し合いの目的を、「グループワークの進め方」のときにきちんと木村氏から説明すべき。
- ・ 「関心」については、プラスの面もマイナスの面も両方だということを、明記・明言すべき。
- ・ 上記2つは、資料に明記すべき。上記についての説明が不十分な場合、資料が出回ったとき、言葉が一人歩きするおそれがあるため。
→資料に明記する。また、「前回の振り返り」と「グループワークの進め方」をつなげて、一連の流れを説明する。
- ・ 現在フォーラムがどういう位置にあるのか、見える化してはどうか。(第1回、第2回のこういう議論を経て、今はこういうことを話し合っている、ということを見える化する)
→見える化のまとめ方次第では誘導と見られるおそれもある。
- ・ 総合ファシリテーターの終了15分前のアナウンスを受けて、サブファシリテーターが、ファシリテーターにその旨を伝え直すべき。

3. フォーラム終了時のアンケートについて

土田氏から、フォーラム終了時に実施するアンケートの構想が説明された。①フォーラム開始前に実施したアンケート（前年度社会調査票と同一）に類するもの、②各回に実施しているアンケートの総集編のようなもの、の2つを実施する予定であることが説明された。

②について議論がなされた。

- ・ ある程度典型的な意見については選択方式で測るべきか。それとも、自由記述を主体にするべきか。
→典型的な意見については選択方式で聞きつつ、その他の意見を自由記述で聞くべきだろう。
→「典型的な意見」をピックアップするために、フォーラム記録のテキストマイニング等を行う。
- ・ サブファシリテーター、参与観察などの視点からの設問も提案してほしい。
→第3回フォーラム終了直後の反省会等で、各自の意見を共有する。

以上を踏まえ、土田氏が原案を作成し、第4回フォーラム研究会で議論することになった。第5回フォーラム研究会で確定し、第5回フォーラム終了時に参加者に渡す。

4. その他

- ・ 今後のフォーラム研究会の日程が確認された。第4回は6月28日、第5回は7月12日である。
- ・ シンポジウムの日程が9月16日（月・祝）で確定された。場所は東大武田ホール、時間は午後の予定。
- ・ PO 及び外部評価委員に、第5回フォーラムのご案内を出すことが確定された。

以上